

「新指定・新登録・新選定」答申物件

《史跡名勝天然記念物の新指定》

【史跡】 9件

1 <sup>みさきういせき</sup> <sup>しゃりぐんしゃりちょう</sup>  
**チャシコツ岬上遺跡【北海道斜里郡斜里町】**

オホーツク文化終末期を中心とする拠点集落遺跡。漁労や海獣狩猟を主な生業とし、独特の動物儀礼を行うなど列島北辺域の海洋適応民文化の内容をよく表すとともに、在地の<sup>さつもん</sup>擦文文化と融合し、地域性の強いトビニタイ文化が形成される過程をも示す。律令国家が栄えた時代の地域文化の多様性を知る上で極めて重要な遺跡。

(オホーツク文化終末期の拠点集落遺跡)

2 <sup>たなぐらじょうあと</sup> <sup>ひがししらかわぐんたなぐらまち</sup>  
**棚倉城跡【福島県東白川郡棚倉町】**

<sup>むつ</sup>陸奥棚倉藩主となった<sup>にわながしげ</sup>丹羽長重が、寛永2年(1625)より造営した城跡。以後、幕末まで譜代大名が城主を務めた。輪郭式の構造であり、本丸は深い堀と大土塁に囲まれた長方形単郭を呈する。江戸幕府の奥羽政策及び寛永期の築城形態を理解する上で貴重。

(寛永2年(1625)より棚倉藩主の居城として丹羽長重が造営した輪郭式の城跡)

3 <sup>しもてらおにしかたいせき</sup>  
**下寺尾西方遺跡【神奈川県茅ヶ崎市】**

弥生時代中期後半の「宮ノ台式」期に限られて営まれた<sup>かんごう</sup>環濠集落跡で、新しく拡大された段階では南関東最大級の規模となる。出土遺物には土器のほか石器と鉄器があり、利器が石器から鉄器へ移行していく時期の在り方を示している。南関東における拠点集落の一つと位置付けられ、弥生時代中期社会の様相を知る上で重要。

(弥生時代中期後半の南関東地域最大級の環濠集落跡)

4 <sup>じょう</sup> <sup>やまこふん</sup> <sup>たいないし</sup>  
**城の山古墳【新潟県胎内市】**

古墳時代前期におけるヤマト政権の影響下にある地域と北方世界の境界の地に位置する前期古墳。豊富な副葬品からヤマト政権との密接な関わりを想定させ、ヤマト政権の北国政策の一端を示すとともに、日本海沿岸地域の成熟過程を示す古墳。古墳時代前期の社会や地域の動向を考える上で重要。

(古墳時代前期の社会や日本海沿岸地域の動向を考える上で、極めて重要な古墳)

こうふじょうあと

## 5 甲府城跡【山梨県甲府市】

豊臣政権下、甲斐一国を治め、関東の徳川氏に対する抑えとして築かれた城跡。江戸時代には甲府藩(徳川氏・柳沢氏)の居城等となった。築城期の野面積み石垣が天守台を中心に良好に遺存する。東日本における初期段階の織豊系城郭として貴重。

(豊臣政権下、甲斐一国を治めるとともに、関東の徳川氏に対する抑えとして築かれた城跡)

ふなきやまこふんぐん

もとすし

## 6 船来山古墳群【岐阜県本巣市】

濃尾平野の北縁部に所在する東西約2km、南北約600mの独立丘陵である船来山に造られた、約290基の墳丘墓及び古墳からなる古墳群。古墳時代前期には前方後円墳や前方後方墳などが、後期には多数の横穴式石室が築造された。東海最大級の古墳群として重要。

(濃尾平野北縁部の船来山に造られた、東海最大級の約290基からなる古墳群)

かつやまごてんあと

## 7 勝山御殿跡【山口県下関市】

幕末の文久3年(1863)、長府藩が攘夷決行のさなか、沿岸部から内陸部に移した藩主居館跡。「御殿」と称するが事実上は城郭であり、南北に直線状に並ぶ連郭式の郭配置をとり、土塁と石垣からなる城堡を設けた。幕末期の緊迫した軍事状況と築城技術を知る上で貴重。

(幕末の文久3年(1863)、長府藩が攘夷決行のさなか、沿岸部から内陸部に移した藩主居館跡)

たかまつはんしゅまつだいらけぼしよ

## 8 高松藩主松平家墓所【香川県高松市・さぬき市】

御三家に次ぐ大名家の家格である高松藩主松平家の墓所。将軍家が帰依した浄土宗の墓所である法然寺には初代、3代から8代藩主のほか正室、一族など222基の墓があり、霊芝寺には儒式で葬られた2人の藩主の墓がある。

(浄土宗の法然寺と儒葬墓のある霊芝寺からなる、親藩である高松藩主松平家の大名家墓所)

あんとくだいせいせき                      なかがわし  
**9 安徳台遺跡【福岡県那珂川市】**

弥生時代中期前葉から後期初頭にかけて営まれた大規模な集落跡。土器、石器、鉄器とともに青銅器鑄造関係遺物が出土している。中期後葉の甕棺墓からは鉄製武器やガラス製品、ゴホウラ製貝輪が副葬されていた。弥生時代の集落と墓域の変遷や階層分化の様相など北部九州地域の弥生時代社会の様相を知る上で重要。

(弥生時代中期前葉から後期初頭にかけて営まれた大規模な集落跡とその墓域)

**【名勝】 1件**

きゅうえきしゅうかんでいえん                      すもとし  
**1 旧益習館庭園【兵庫県洲本市】**

江戸前期の徳島藩筆頭家老稲田氏の別荘庭園を始まりとする池泉庭園。洲本城城下町武家居住区の石切場跡に造られ、幕末に稲田氏の私塾が移設され「益習館」となった。曲田山を背に、石材切り出し時の矢穴の残る巨岩が園池に面して並び、特徴的な景観を形成している。

(江戸前期の徳島藩筆頭家老稲田氏の別荘庭園を始まりとする、巨岩の並ぶ池泉庭園)

**【天然記念物】 2件**

どうざんみね                      ぐんらく  
**1 銅山峰のツガザクラ群落【愛媛県新居浜市】**

ツガザクラは、ツツジ科ツガザクラ属の常緑小低木で、氷期に日本列島に到達し種分化した日本固有種である。愛媛県新居浜市に所在する銅山峰のツガザクラ群落は、分布南限に当たる良好な自生地であり、植物地理学的、生態学的、遺伝学的に価値が高い。

(ツガザクラ属の常緑小低木で日本固有種であるツガザクラの分布南限に当たる自生地)

たけたしこうばる                      おおのがわすいけい                      せいそくち                      たけたし  
**2 竹田市神原の大野川水系イワメ生息地【大分県竹田市】**

突然変異により生じたアマゴの無斑型と考えられるサケ科の淡水魚イワメが安定的に生息する重要な生息地。国内で唯一イワメ単独の生息域が確認され、こうした表現

型の出現・維持機構の解明等に遺伝学上貴重な資料を提供するほか、同生息地のアマゴとの生殖的隔離の可能性等も示唆されており、生態学的にも貴重。

(突然変異により生じたアマゴの無斑型と考えられる学術上貴重な淡水魚イワメが安定的に生息する重要な生息地)

## 《登録記念物の新登録》

### 【遺跡関係】 1件

あいづいいもりやまびやっこたいしふんぼいき

#### 1 会津飯盛山白虎隊士墳墓域【福島県会津若松市】

戊辰戦争時の慶応4年(1868)に飯盛山で自刃した会津藩白虎隊士を祀る墳墓域。隊士墓は明治23年(1890)に整備され、大正15年(1926)拡張されて今日見られる姿となった。幕末の戊辰戦争における悲劇と、その慰霊の歴史を理解する上で意義深い。

(戊辰戦争時の慶応4年(1868)に飯盛山で自刃した会津藩白虎隊士を祀る墳墓域)

### 【名勝地関係】 2件

たんどうしていえん きゅうみかみしていえん

#### 1 丹藤氏庭園(旧三上氏庭園)【青森県弘前市】

葛原の素封家で代々「源造」を名乗った三上氏により明治15年(1882)に造営され、昭和8年(1933)に池田亭月いけだていげつにより手が加えられた庭園で、明治初期から昭和にかけての大石武学流宗家の作庭手法の系譜を知る上で意義深い事例。

(明治初期に造営され、昭和初期に池田亭月が手を入れた大石武学流の庭園)

こうぜんじていえん かんうんてい きそまち

#### 2 興禅寺庭園(看雲庭)【長野県木曾郡木曾町】

山間部に所在する禅宗寺院に作庭家重森三玲しげもりみれいによって昭和38年(1963)に造られた枯山水庭園。白砂に15の石を配し、雲海と山岳を表現する。施工に際しては、重森本人が現場に出て指示をし、自ら鋤こてを持って作業に当たった。

(山間部に所在する禅宗寺院に、作庭家重森三玲によって昭和中期に造られた枯山水庭園)

## 《重要文化的景観の新選定》

### 【重要文化的景観】 1件

#### 1 う わ かいかりはま だんばた のうぎよそんけいかん 宇和海狩浜の段畑と農漁村景観 せいよし 【愛媛県西予市】

入江，居住地，段畑，山林が連なる壮大な景観は，黒潮の影響を受ける愛媛県南西部のリアス海岸における土地利用を示し，みかんと灰白色の石垣が目进行く段畑は，露頭する石灰岩などを用いて急斜面に畑を開いてきた人々の営みを伝える。

(黒潮の影響を受ける宇和海沿岸，リアス海岸での暮らしを伝える段畑の景観)